

### \* 東京天文台時代の1号官舎の三鷹市登録有形文化財登録書届く

東京天文台は1888年、東京大学天象台、海軍観象台、内務省地理局の3者が統合され海軍観象台があった麻布区飯倉の地に発足した。しかし、麻布・飯倉の敷地は2500坪と狭く、その上、崖地が900坪もあり非常に狭隘であった。100m四方のほどの土地であったと書いたほうが分かりやすい。その上東京の中心地で明かりで観測もしづらくなり、市街地を離れた広大な三鷹村に移転する計画が進められ、明治42年には三鷹村大沢の地に7300坪あまりを購入した。しかし、日露戦役で疲弊した国力のため、移転予算がなかなかつかなかつた上、研究者も田舎の三鷹への移転に積極的でなかったため、移転は遅々としていたが大正4年には1号官舎が建設された。そして観測のための建物も大正9年から13年にかけて次々と建設されていき、関東大震災で麻布・飯倉の東京天文台が壊滅的な被害を受けたことを機に大正13年9月には東京天文台は一応三鷹村に移転した。そしてほぼ70年を経た平成10年代半ばには、官舎は1号官舎を除いて全て取り壊された。1号官舎は文化財的価値があるとして取り壊しを免れ、保存と有効活用が検討され、「三鷹市星と森と絵本の家」として活用される事になり、いよいよ1ヶ月先の7月7日には開館されることになっている。大正4年に建設された1号官舎は現在の耐震基準に合わないため、一度完全に解体され、使用できる部材を使って少し北に移し立て直された。この1号官舎が三鷹市の文化財に指定されるため、その絵図面も付属物として文化財の指定を受けることになっていた。その指定書が2009年6月5日、三鷹市教育委員会から届けられた。写真1が立替前の1号官舎である。



写真1 解体前の1号官舎

写真2は、三鷹市登録有形文化財の登録書の入った書類挟みである。

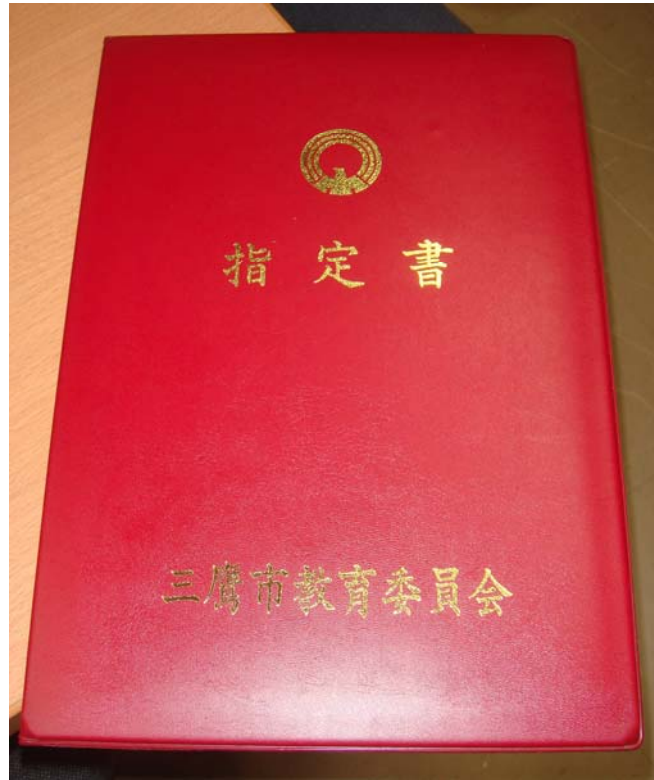


写真2 届けられた指定書類

また写真3は、登録有形文化財Ⅰの登録書である。なんと第1号とある。

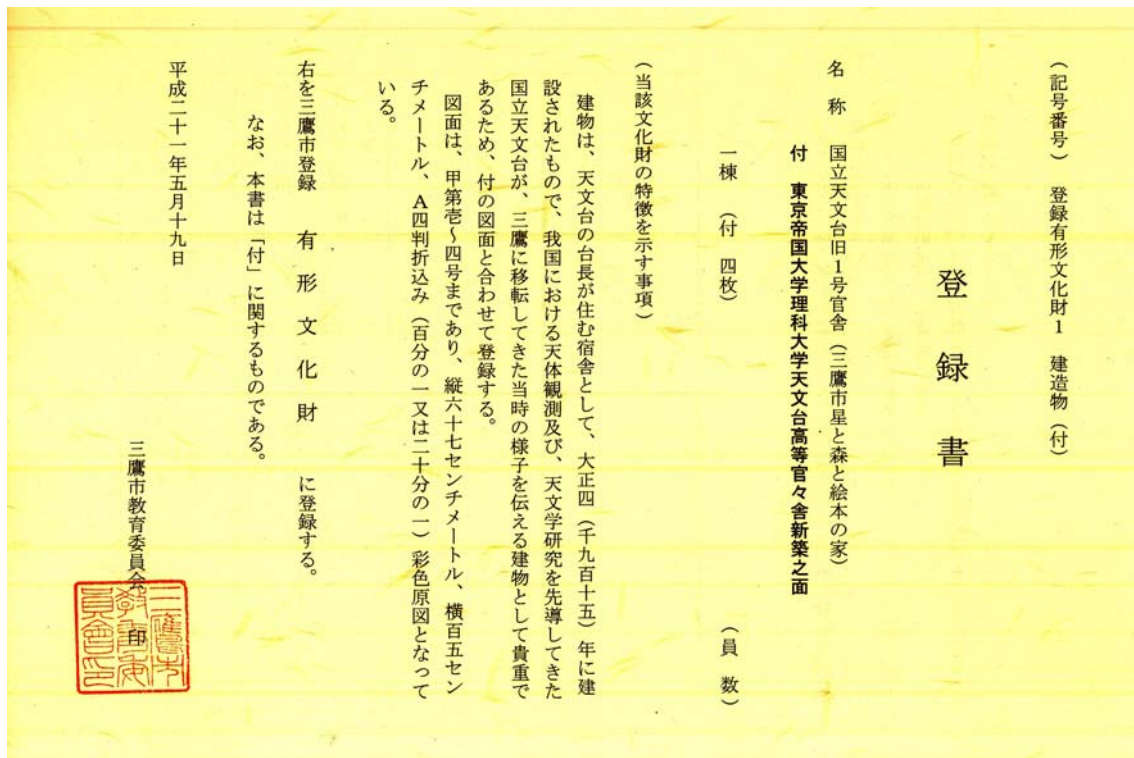


写真3 1号官舎の三鷹市 登録有形文化財Ⅰの書類

そして、国立天文台に残っていた1号官舎の絵図面4葉もこの登録有形文化財の建造物に

合わせて登録された。写真4が絵図面の1枚で南側から見た図である。

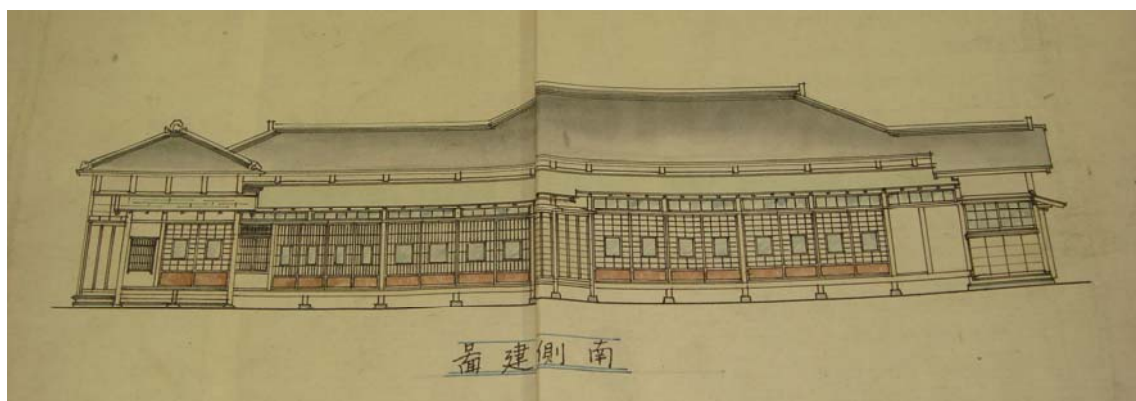


写真4 1号官舎の絵図面（南側からの図）

改築後の1号官舎は、「三鷹市星と森と絵本の家」として、現在、が外構工事中であり、絵本の家としての完成の写真は現在のところないが、写真5が、写真4に対応する改築後の様子である。



写真5 改築後の1号官舎南側

深い草むらの中で、朽ち果てようとしていた1号官舎はほぼ100年の年月を経て、「三鷹市 星と森と絵本の家」としてよみがえろうとしている。7月7日には会館の式典がとりおこなわれる予定である。天文台構内に50件近くの官舎があった時代のような子供たちの声が返ってくるのであろうか。